

参 考 手 本

佳氣高堂に満つ

佳 氣 高 堂 満

成 瀬 映 山 先 生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。



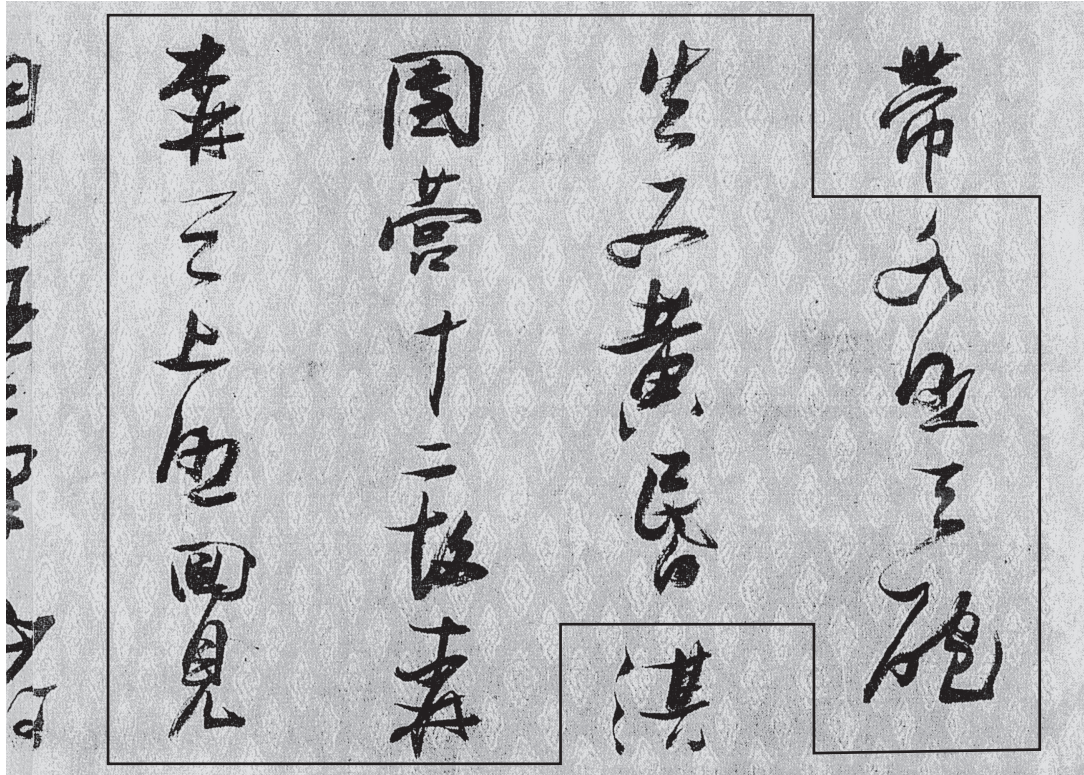
寄暢
須臾
歡ぶ

高
木
聖
雨
先生

条幅規定

A部 (準五段以上)

B部 (四段～準三段)



森森一團

ちようずいと
張瑞凶 (明) 『感遼事作六首卷』 ⑨

水照天砲

火又黄昏 (其三)

團營十二故森

森天上昭回見

水を (帯び) 天を照らす

砲火又た黄昏と

團營十二故と森々

天上昭回 (羽林を) 見る

(河は) 帯のように (狭いが、)

砲火とまたその上に黄昏が空を照らしていると。

十二の兵營はもとより静まりかえっているが、

天上に光がめぐると (近衛兵の姿が) 見える。

【今月の課題】

「水照天砲火又黄昏團營十二故森森天上昭回見」(20字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く
段・級を記入してください

(2月10日締切)

条幅規定

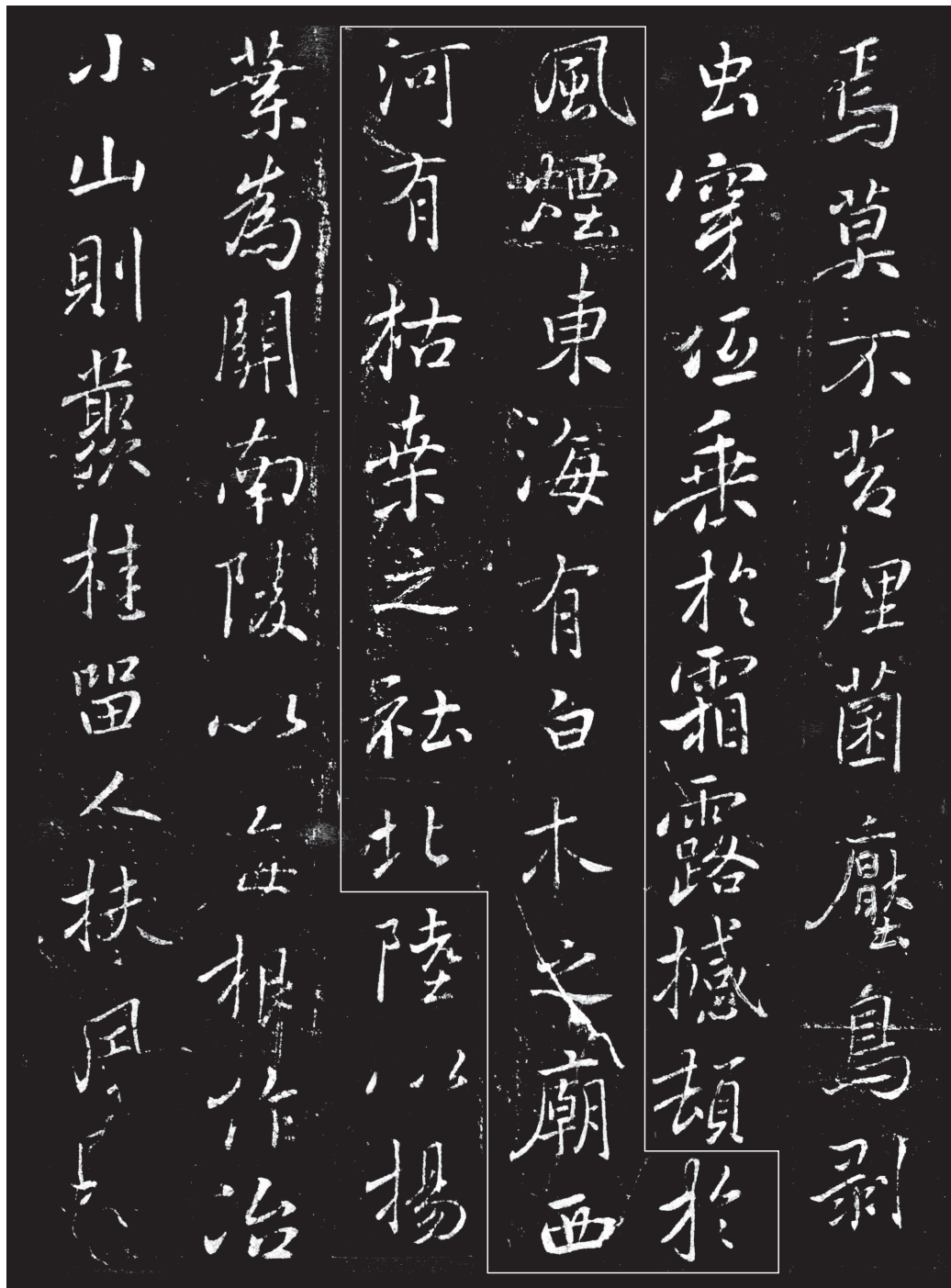
C部 (二段以下)

『枯樹賦』

楮遂良

(唐)

⑭



焉。莫不苔埋菌壓。鳥剝

虫穿。低垂於霜露。撼頓於

風煙。東海有白木之廟。西

河有枯桑之社。北陸以楊

葉為關。南陵以梅根作治。

小山則叢桂留人。扶風是

焉これに(座す)苔埋こけうすめ菌壓きんあつし、

鳥はの剝はぎ虫うがの穿うがち、霜露つゆに低垂ていすい

し、風煙かんえんに撼頓かんどんせざる莫なし。東

海はくぼくには白木びやくの廟びやう有り、西河せいがには

枯桑こそうの社やしろ有り。北陸ほくりくには楊葉やうを

以かんて関かんと為なし、南陵なんりやうには梅根ばいこんを

以やて治なと作なす。小山しょうざんは則すなはち叢桂そうけい

に人ひとを留とどめ、扶風ふふうは則すなはち

【今月の課題】「於風煙東海有白木之廟西河有枯桑之社北」(18字)

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

(2月10日締切)

半紙規定 (二)

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書



九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)

乾象之精蓋亦

唯だ乾象の精のみに匪ず、蓋し亦た

半紙規定 (一)

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。



曹全碑 (漢・作者不詳)

極鼎足中平二

鼎足を極められよ。中平二

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
(2月10日締切)

【今月は6文字です】

輝かしい新年を迎え

皆様のご清福をお祈り申し上げます

有限会社 北日本書芸院

丹桂有根獨長詩書門弟黃
金無種偏生勤儉人家

翠濤

主幹 菅野 翠濤

丹桂有根獨

長詩書門弟

黃金無種偏

生勤儉人家

春雪滿空來
觸處似花開
不知園裏樹
若個是真梅

朝平霞山先生

朝平霞山先生

春雪滿空來

觸處似花開

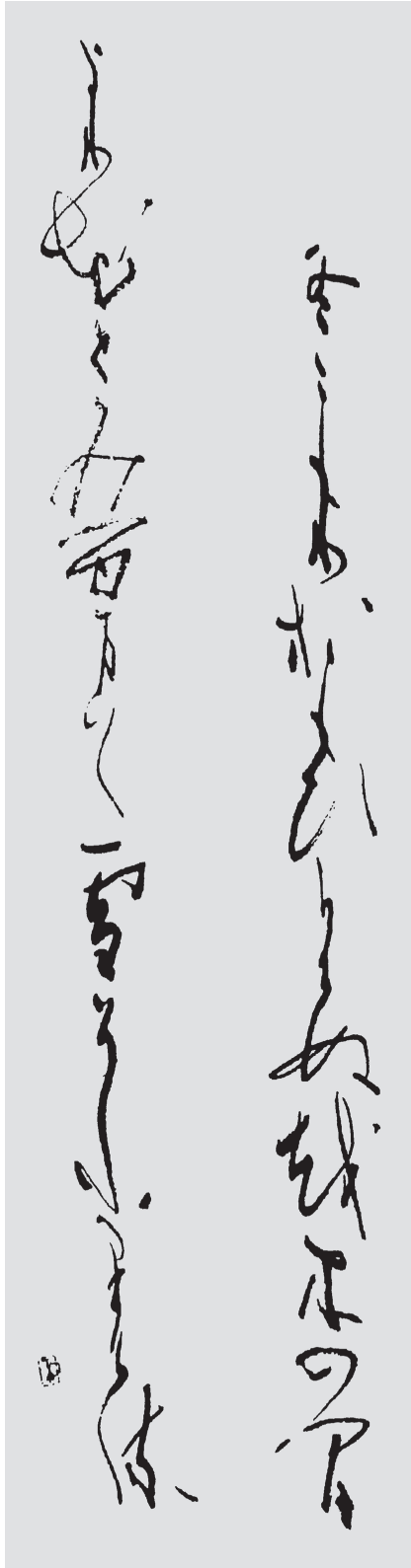
不知園裏樹

若個是真梅

条幅かな

条幅参考手本

冬ふゆこもりおもひかけぬを木この間まより花はなとみるまで雪ゆきぞふりける（紀貫之）
 利於 可介 越 利 留方 皆 里介流
 ※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。



浮乗清郷先生

(2月10日締切)



渡邊南嶂先生

入春纔七日
 離家已二年
 人歸落雁後
 思發在花前

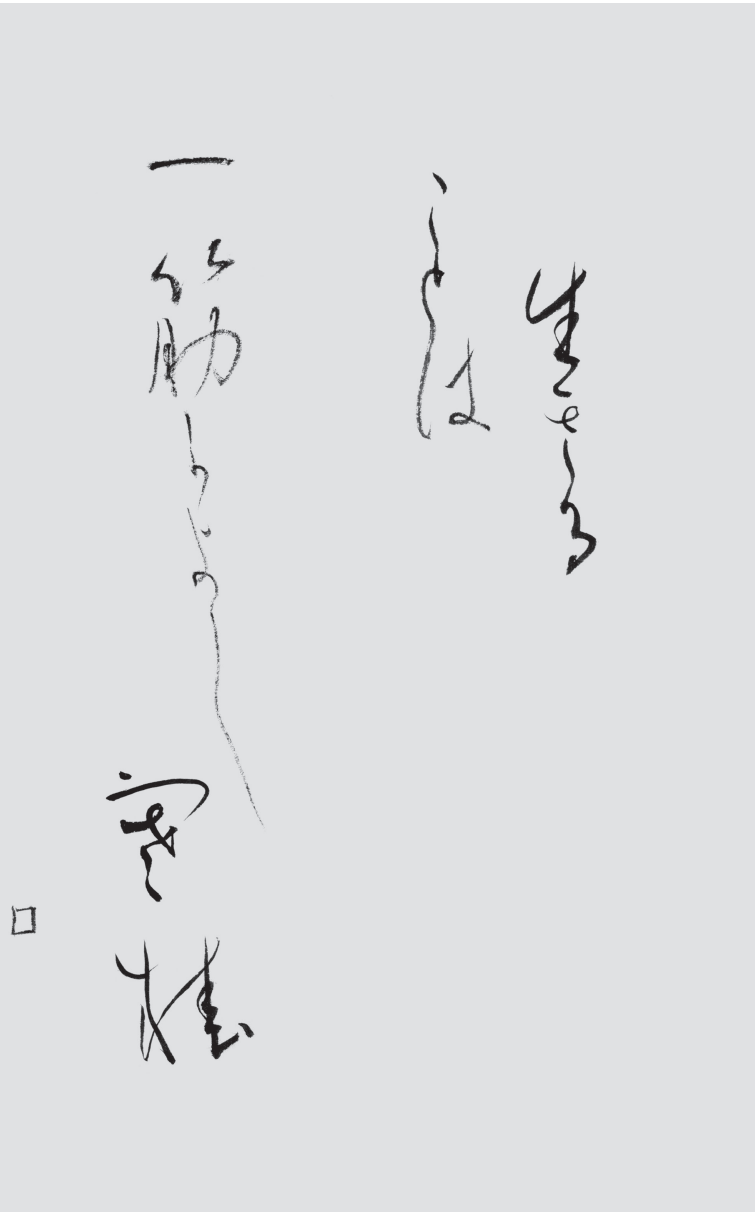


大井岳陵先生

野寺分晴樹
 山亭過晚霞
 春深無客到
 一路落松花

半紙かな（1級以下）

生きることは一筋がよし寒椿（五所平之助）



支部名

級

姓

号

（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

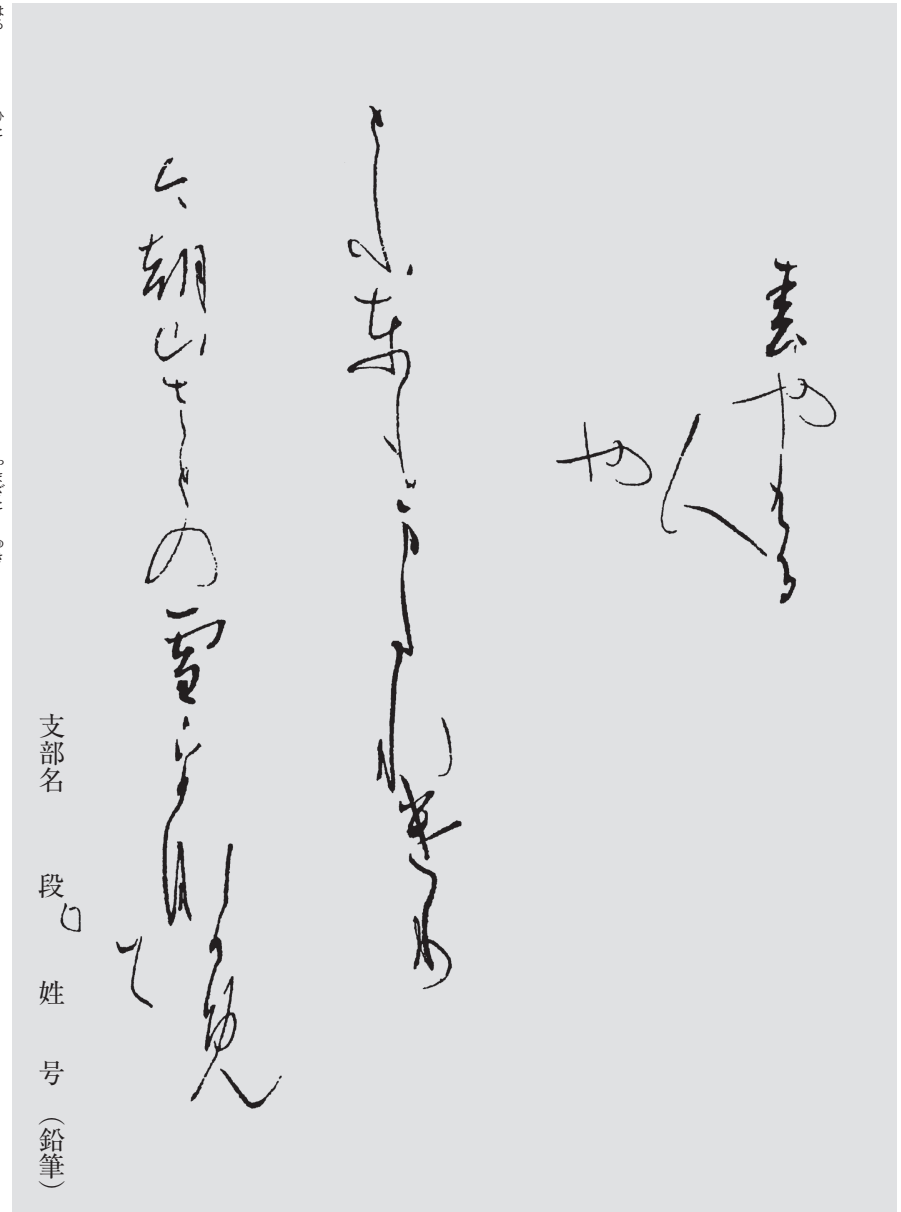
※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

春やくる人やとふともまたれけり今朝山里の雪を眺めて（赤染衛門）

船久保 棠苑先生

※ちらし文字変換は自由



支部名

段

姓

号

（鉛筆）

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（2月10日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

爆竹が鳴る中で旧年は尽き、春風
 は暖気を送り屠蘇の盃も暖かい。
 総ての家に初日が輝くこの日、家こ
 は新しい魔除けの符に取換える。

支部 段級 姓 号

主 幹 菅 野 翠 濤

王安石の歌「正月」より

(2月10日締切)

細 字

庭前子雀野鳥嘽啼
 庭前子雀野鳥嘽啼
 庭前子雀野鳥嘽啼

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。

初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

野鳥
嘽啼

野外の鳥類。
さえずり鳴く。

(2月10日締切)

硬筆（1級以下）

2行、楷書

寒中お見舞申し上げます。早々と
 賀状を頂き有難うございました。

支部 級 姓 号

齊藤 翡翠 流 先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

日本の緑を代表するものが松。千年
 変わらぬ緑を保つめでたい樹々
 て祝事に用いられる。

支部名 級 姓号

…緑…変わらぬ…。

青柳 江雲 先生

※本院定型用紙・たて半分を書く

（2月10日締切）

中2用

支
部
名
明
日
の
希
望

段
級

名
前

渡邊南嶂先生

中3用

支
部
名
冬
空
渡
り
鳥

段
級

名
前

大越三宗先生

小6用

支
部
名
大
雪
の
朝

段
級

名
前

渡邊南嶂先生

中1用

支
部
名
社
会
の
動
向

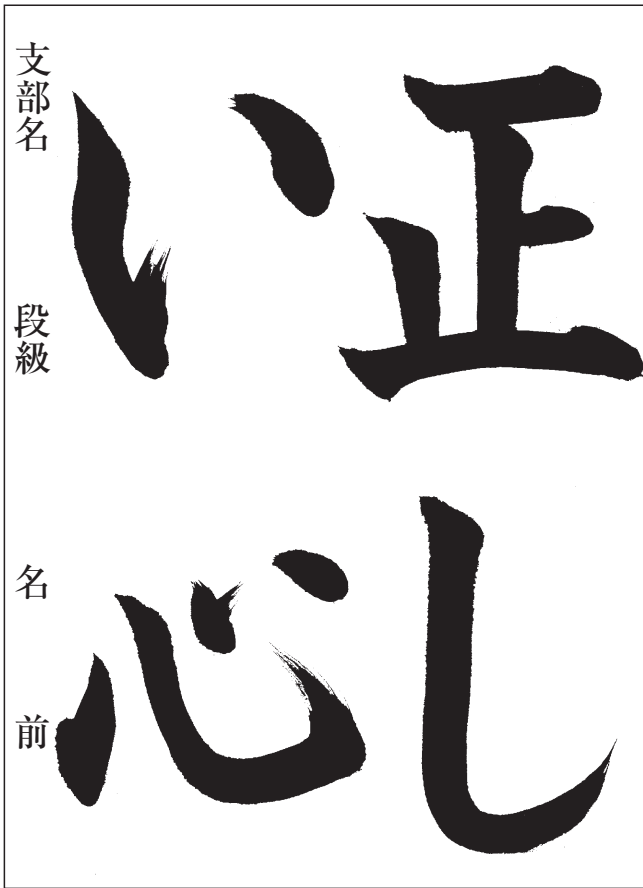
段
級

名
前

渡邊南嶂先生

(2月10日締切)

小4用



支部名

段級

名

前

大越三宗先生

小5用



支部名

段級

名

前

大越三宗先生

小2用



支部名

段級

名

前

鈴木翡翠先生

小3用



支部名

段級

名

前

鈴木翡翠先生

(2月10日締切)

中 1

降雪は音を吸収するからだ。
降っている間は静かだ。

中1~中3

中 2

節分の日を境に、少し
ずつ暖かくなります。

青柳江

中 3

青春時代は夢と希望に
満ちあふれています。

雲先生

小1・幼年用

るがえ

支部名

段級

名

前

鈴木蕙先生

小1・幼年

ともだちと、ゆきだる
まをつくりました。

小1~小3

小 2

ゆきが花びらのように
たくさんふっている。

鈴木蕙

小 3

二月はじめに、父とス
キーに行ってきました。

翠先生

小 4

自分で決めたことは、
さい後までつづけよう。

小4~小6

小 5

家族そろって、節分の
豆まきをしました。

田辺翠

小 6

人間の幸福は、日々の
努力から生まれて来る。

鶴先生

(2月10日締切)

小学部小筆課題

中学部かな課題

支部名
段級
名前
前

金色に光る
富士山

主幹 菅野翠濤

支部名
段級
名前
前

冬
心のおくものよ
山野

船久保棠苑先生

※半紙半分を書いて下さい。(2月10日締切)

※半紙半分を書いて下さい。

3月10日締切課題予告

A B部条幅規定 羽林王氣山河千里固皇居城闕九重深胡塵雪暗

C部条幅規定 陸以楊葉爲關南陵以圍根作冶小山則叢桂留

かな条幅規定 あしひきの岩間をつたふ苔水のかすかにわれはすみわたるかも(良寛)

半紙規定(初段以上) 年十月丙辰造 半紙規定(二級以下) 坤靈之寶謹

半紙かな(初段以上) いま桜咲きぬと見えてうすぐもり春に霞める世のけしきかな(式子内親王)

半紙かな(二級以下) 玉の如き小春日和を授かりし(松本たかし)

3月10日締切学生部課題予告

中三規定 宇宙の神秘 中三硬筆 時に応じ、正しく判断し行動する姿勢を養う。

中二規定 日本海の波 中二硬筆 人は経験をし、難しさに挑戦し、進歩する。

中一規定 名残りの雪 中一硬筆 三寒四温の頃、一雨ごとに春めいて来る。

小六規定 春の足音 小六硬筆 勉強は、自分からやろうとする意志が大切。

小五規定 雪どけ水 小五硬筆 寒くても、まどを開け空気を入れかえよう。

小四規定 大きな岩 小四硬筆 春には、野にも山にも木のめが出てくる。

小三規定 ゆき空 小三硬筆 春に入ってもまだ風はひんやりとつめたい。

小二規定 リズム 小二硬筆 かえるや、へびは、まだ土の中にいます。

小一規定 あられ 小一硬筆 おおぞらに、たこがあがっていきます。

小学部小筆 雪どけ 春近し

中学部かな いくたびも雪の深さをたづねけり